

令和3年度湯前町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占め主食用米面積の割合が58%で、転作作物に占める飼料作物の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいない。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付けに転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農業の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中、水稻作付面積の維持が課題となっている。

その他、麦、大豆においては、排水不良などにより単収の低下を招いており、作付けが減少しているが、麦、大豆、そば、飼料作物については二毛作を推進し、飼料作物、飼料用米については耕畜連携も併せて推進していく。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

(1) 適地適作の推進

当地域ではメロンやイチゴ、キュウリなど様々な高収益作物が栽培されており、農業者毎にそれぞれの作付体系に適合した品目の導入を図っていく。

(2) 収益性・付加価値向上への取組

高収益作物への計画的な転換を図るため、地域への水田農業高収益化推進助成の周知を行い、産地における水田農業の高収益化を推進する。

(3) 新たな市場・需要の開拓

商談会や現地プロモーション活動を活用しながら、新たな需要の拡大を図る。

(4) 生産流通コストの低減

生産性向上のために「強い農業・担い手づくり総合支援交付金」や「産地生産基盤パワーアップ事業」等を活用し、施設整備を進めていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

畑地化の取組について重点支援期間であることの周知を行い、今後も水稻作に活用される見込みがない水田については、地域の実情に応じて水田の畑地化を推進していく。人・農地プランの実質化に向けた話し合いや水田農業高収益化推進助成を周知する中で、水田の利用状況についても点検し、今後施設園芸を中心に水稻作に活用される見込みがない水田については、地域の実情に応じて水田の畑地化を推進していく。

4 作物ごとの取組方針等

町内約500haの水田について、適地適作を基本として産地交付金を活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

特に飼料作物を転作作物の主体として位置付け、生産コストの効率化等に取り組みながら、あわせて、農家所得の確保の観点から地域振興作物の作付を推進することで、魅力ある産地づくりを推進する。

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底によって、安心安全な米作りを推進するとともに、前年の需要実績や集荷業者等の意向を勘案しつつ、需要に応じた米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米の生産拡大にあたっては、今後も産地交付金を活用し、多収品種の導入推進及び団地化の推進を図り、令和5年度には2.0haの作付けを目指す。

イ WCS用稲

主食用米の需要減少が見込まれる中、WCS用稲を転作作物の中心に位置付け、耕種農家と畜産農家との連携により、水田における良質の粗飼料生産を行い、作付面積の維持・拡大を図る。

ウ 加工用米

加工用米は地元焼酎蔵元への販売を中心に生産を行っており、今後も産地交付金を活用し生産の拡大を図っていくこととする。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については生産性の高い優良品種への転換により収量・品質の高位安定化を図る。

飼料作物では、耕種農家と畜産農家の連携により水田からの良質の粗飼料供給（トウモロコシやイタリアン等）を今後も行う必要があるため、産地交付金を活用し、安定生産と資源循環の取組を支援する。

また、産地交付金を活用し二毛作の作付を支援することで作付面積、水田利用の維持・拡大を図る。

(4) そば、なたね

地域の実需者との契約に基づき、産地交付金を活用して二毛作の作付等の取組を支援し現行の栽培面積を維持・拡大する。

また、適切な排水対策を実施することとする。

(5) 高収益作物

メロン、イチゴなどの施設園芸作物を中心として生産拡大を図るとともに、産地交付金を活用し、オクラ、ブロッコリー、ズッキーニ及び甘長とうがらしといった高齢者でも取り組みやすい作物やその他野菜を地域振興作物として普及に努め、水田の不作付地の抑制にも努める。

また、花き・花木等についても水田活用に効果的な作物であるため、今後とも支援を行い、作付面積の維持・拡大を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	令和4年度の 作付目標面積 (ha)	令和5年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	289 1,237 t	295 1,454 t	295 1,454 t	295 1,454 t
備蓄米	0.0	0.0	0.0	0.0
飼料用米	0.2	0.2	2.0	2.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	66.5	65.1	66.5	67.0
加工用米	1.0	1.0	2.0	2.0
麦	14.6	15.0	15.0	15.5
大豆	0.5	0.5	1.0	1.0
飼料作物	133.4	140.0	150.0	150.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0	0.0
そば	3.4	3.5	3.7	4.0
なたね	0.0	0.1	0.1	0.1
高収益作物	44.5	44.6	45.0	45.4
野菜	34.4	34.6	34.7	34.8
花き・花木	2.7	2.5	2.5	2.5
たばこ	6.5	6.5	6.6	6.7
ミシマサイコ	0.9	1.0	1.2	1.4
その他	2.4	2.4	2.5	2.6
雑穀	2.4	2.4	2.5	2.6
畑地化	0.0	1.0	1.0	1.0

※ 主食用米の当年度、令和4年度、令和5年度の目標値において使用した単収は 493kg/10a

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績） 令和2年度		目標値 令和5年度	
1	野菜、花き、雑穀 等	地域振興作物助成 （基幹）	作付面積	46.9ha	48.0ha		
2	麦 大豆 飼料作物 そば	二毛作助成 （二毛作）	作付面積	麦 10.9ha	麦 11.3ha		
				大豆 0.0ha	大豆 0.3ha		
				飼料作物 90.5ha	飼料作物 92.0ha		
				そば 1.6ha	そば 2.0ha		
			水田利用率	108.2%	110.0%		
3	飼料作物 WCS用稲	資源循環の取組 （基幹・二毛作）	取組面積	72.1ha	72.7ha		
			取組率	35.6%	35.9%		